北海道バプテスト連合ニュース
全道にキリストの光を！

２０１６年７月発行　No. １０８
発行者　西島啓喜　　編集者　西島啓喜
発行所　〒080-0809　帯広市東9条南8丁目1-3
帯広バプテスト・キリスト教会内
http://hokkaidobap.jimdo.com　pw:jbc1947

巻頭言

「神の言葉は語られているか、聞かれているか」

北海道バプテスト連合　会長　西島　啓喜（帯広教会）

「またわたしは、玉座に座っておられる方の右の手に巻物があるのを見た。表にも裏にも字が書いてあり、七つの封印で封じられていた。また、一人の力強い天使が、「封印を解いて、この巻物を開くのにふさわしい者はだれか」と大声で告げるのを見た。しかし、天にも地にも地の下にも、この巻物を開くことのできる者、見ることのできる者は、だれもいなかった。この巻物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見当たらなかったので、わたしは激しく泣いていた。」　　（ヨハネの黙示録５：１－４）

天上での荘厳な礼拝を幻で垣間見た長老ヨハネは、その礼拝の中で「激しく泣」きます。その時のヨハネの胸中には一体何があったのでしょう？ローマ皇帝による激しい迫害がいつまで続くのか、なぜ神はそのような暴虐を許されるのか、それを知ることのできない悲しみなのか？アジアの諸教会が迫害のため指導者を失い、聖書を解く者が次々といなくなっていく、そのような諸教会を思うときの悲しみなのか？いずれにせよ「神のみ心がわからない」悲しみからであったことでしょう。

大震災や思いがけない事故で大切な家族を失った時、人はしばしば、やりきれない思いをぶつけます。「神はなぜそのようなことを許されたのか､黙って見ていたのか」と。そのとき、聖書の文字は見えていたとしても、神の言葉として響いてこない、神の言葉は封印されているのです。解く者が必要なのです。長老のひとりが「泣かなくてもよい。封印を解いてくださる方がいる」と語りかける、そのような説教が必要なのです。

私は思います。毎週の礼拝の中で神の言葉がしっかりと解かれているか、しっかりと聞かれているか、伝わらない時「激しく泣く」ような飢え渇きを覚えているか、説教に対してあきらめていないか、と。

説教塾を主宰している加藤常昭氏によると説教を「作る」作業は次の７つの段階があると言います。

１　第１のテキスト
聖書を繰り返し繰り返し読み、味わい、思索・黙想する段階。ここで気になる聖句が中心聖句になる場合がある。
２　第２のテキスト
釈義の段階。聖書箇所をできれば原典から訳す。できなくても英語の翻訳、岩波訳、個人訳などで翻訳を比較する。釈義辞典や註解書により聖書箇所を立体化する。
３　第３のテキスト
第２の黙想の段階。説教の言葉となるよう黙想する。「説教黙想アレテイア」などにより神学的かつ実践的な説教黙想をする段階。
４　第４のテキスト
牧会的対話の段階。この説教が聞き手と共感できるか検討する。
５　第５のテキスト
ここで初めて文字化する。しかし原稿は説教では用いないのが理想（暗記し自分の言葉化する）。説教の終わり方まで見通す。中心的メッセージをどこで語るか、初めに語るか、徐々に結論に導くか構想する。
６　第６のテキスト
語られるテキスト。説教は「読む」ものではなく「語る」もの、また「聞く」もの。頭にメモリーする段階。実際に講壇に立ち、聞く者を意識しながら、原稿を見ずに語れるまで練習・記憶する。
７　第７のテキスト
聞かれたテキスト（説教）。説教は説教者の意図とは必ずしも関係なく聞き手に伝わる。聞き手に生きて働くもの。聞き手がどう聞き取ったかを知ることは説教者にとっても有益。

実践しておられる説教者・教会には失礼かもしれないが、第５の段階で終わっている説教もあるのではないか。勇気をもって「第７のテキスト」まで踏み込んではどうだろう。きっと教会の礼拝がもっと豊かになるのではないだろうか。

帯広教会では最近、礼拝後に「説教を分かち合う」集まりが始まった。説教批判になるのでは？という懸念もあったが、今のところ説教を深める良い分かち合いができていると思う。「第７のテキスト」まで説教が味わわれることが健全に定着することを願っている。

●室蘭教会に着任しました

室蘭教会　牧師　吉田　尚志

2016 年 4 月より、室蘭バプテスト・キリスト教会の牧師として赴任いたしております、吉田尚志です。

牧師として神さまにお仕えする献身の思いが与えられ、備えをしつつ神さまが示す地を祈り求めるなかで、室蘭バプテスト・キリスト教会の皆さまとの出会いが与えられました。教会の皆さまと一緒に日々、神さまと出会い、神さまを知り、神さまが伴ってくださる人生を〝喜びと感謝〟をもって過ごしていきたいと願っています。そしてこの〝神さまと共に生かされていく幸い〟を、神さまが愛しておられるお一人おひとりに、教会の皆さまと一緒にお伝えしていきたい、そう願っています。また、この願いは同時に、北海道連合諸教会の皆様と共に成されていく歩みであることを、強く思わされずにはいられないのです。室蘭バプテスト・キリスト教会は、二年における無牧師期間と今年度牧師赴任後も、あるいはこれまでの教会の歴史のなかで、継続的に連合諸教会の皆さま方から様々な支援をいただいてきております。この歩みのなかで私たちは、励まし、慰め、喜び…言い尽くせない大きな恵みをいただきながら、自らがおかれた地での使命に生かされ続けていくことがゆるされているのです。この恵みの豊かさを肌身で味合わせていただいている一人として、北海道連合諸教会皆さまとの連帯と協働の業に喜んで繋がらせていただきながら、〝イエス・キリストと共に生かされていく幸い〟を、皆さまと一緒に日々知らされ、出会うお一人おひとりにお伝えしていきたい、そう願っております。皆さま、欠けたる器のわたくしですので、いろいろ教えていただければ幸いです。何卒よろしくお願いいたします。

●全国牧師配偶者研修会が開かれました」

函館美原教会　福田　美代

「５月１７日から１９日まで、函館にて全国牧師配偶者研修会が行われました。南は沖縄から北は北海道まで、子どもたちを含めて３７名の方々が参加されました。天気も良く暖かい中で、「置かれた場所で咲くために」という主題のもと、年に一度の研修会を行うことができました。

北海道連合の皆様には、この研修会のために、多くの予算を取っていただきました。それがなければ、この研修会を行うことはできませんでした。本当にありがとうございました。

さて、長い歴史を持つこの全国牧師配偶者研修会ですが、牧師配偶者のあり方が多様化している中で、この研修会をどのようなかたちにしていくべきなのか、色々な課題があります。それに対して、私たちは、なかなか直接話をする事ができない中で工夫しながら、北海道の牧師配偶者たちの意見をまとめ、一つ提案を今回の研修会にしました。残念ながら私たちの提案どおりの結論には至りませんでした。しかし、前へまず一歩、歩み出すことができたものと思います。次回の中部連合に色々と引き継ぎながら、この会が整えられるために、また祈り合い、主の御心を求めて行きたいと思っています。

最後の夜には函館美原教会の森洋子姉のチェンバロによって心が癒され、福田雅祥牧師によって語られた主の言葉に魂を癒され、養われて会を閉じることができました。感謝します。

北海道連合の皆様のお祈りとお支えに、重ねて感謝申しあげます。

● 2018 年のクリスマスは新会堂で！

苫小牧教会　牧師　田代　仁

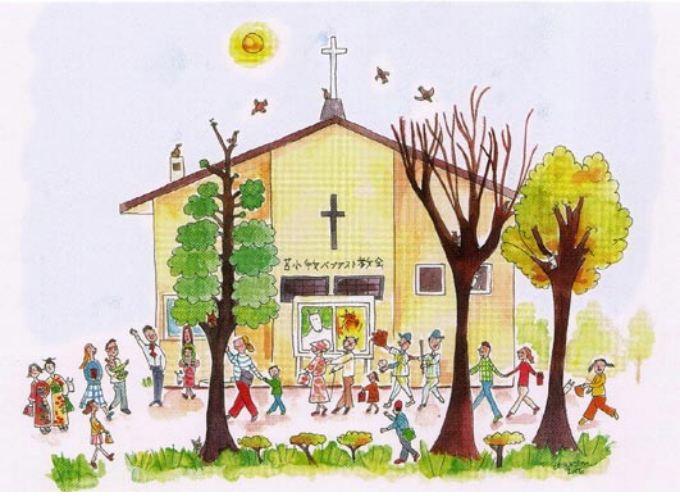
苫小牧バプテスト伝道所は、1976 年に西野教会に続く 2 番目の「連合開拓」として始まりました。連合諸教会の献金と宣教団の支援によるキャペオ方式によって現会堂と宣教師館（現牧師館）が建てらたのですが、このために、母教会となってくださった室蘭教会をはじめ、多くの教会・伝道所の皆さんのお祈りとご支援があったことを思います。その後、多少の増改築はありましたが、基本的には 1976 年に建築された現会堂によって 40 年の間、苫小牧教会の活動は守られてきました。

（現会堂鍬入れ式（1976 年）　右：B ウエスタン宣教師）

しかし、その現会堂もあちらこちらに痛みが見えるようになってきました。雨漏りのあとは言うに及ばず、ドアや窓の枠のゆがみとそれに伴う隙間風。一番気になるのは、礼拝堂の床のひずみです。明らかに山なりになっていて、高低差でいったら数 cm はあるでしょう。

ですが、私たちは「新会堂建築ありき」ではなく、まず「新しい教会」を祈り求めました。それはあるいは「伝道所」を作るという「新しい教会」かもしれませんし、内実としての「新しい教会」であるかもしれません。数年にわたってその祈りと思いを重ねてきた結果、2015 年 1 月に「2018 年のクリスマスは新会堂で！」という思いが与えられ、2015 年度の計画総会で「新会堂建築」に向けて動き出すことを決議しました。現在は、新会堂のコンセプトを相談しつつ、資金計画を練り上げているところです。

そこで連合諸教会の皆様に、ぜひ、苫小牧教会の「新しい教会」建築のためにお祈りをお願いしたいと思います。新会堂という新しい器に、新たな思いで主のご計画に献身していく事が出来るように。そして、この働きが主の栄光とされていきますように、ぜひ共に祈っていただければ感謝です。



（現会堂のイラスト）

●宣教会議の報告

帯広教会　西島啓喜

2016 年 4 月 28 日 19 ～ 21 時、札幌教会を会場に全道から３１名の方々が出席し、宣教会議を開催した。北海道連合は「新しい教会を生み出す」というビジョンの下、４つの教会を生み出してきたが、それ以降、教会強化に力を入れてきた。はたして連合の方針はこれでいいのか、新しいビジョンが必要ではないか、という問題提起を受けて、①釧路教会の厚岸地区での「新・伝道圏伝道」の取り組み、②澤田二穂氏（帯広）によるトマムのホテルでの早朝礼拝の取り組み、③日高龍子師（平岡）によるタイでの神学教育（信徒訓練プログラム）の紹介、④札幌教会の「新しい教会づくり」の模索、⑤田森師（旭川）による「信徒大会」復活の構想、⑥旭川東光教会の早朝礼拝の開始、⑦函館美原教会の英語の礼拝の実情、⑧吉田尚志師（室蘭）により室蘭教会の留学生の方たちとの礼拝の様子などが紹介され刺激を受ける会議となった。

北海道の伝道はこうした各教会の前向きな実践を通して次の展望が開かれるのかもしれないという希望の持てる会議となったことを感謝したい。

●野田村仮設住宅訪問活動感謝礼拝（仮）のご案内

北海道バプテスト連合　災害対策委員会

2016 年 3 月（第 55 回）をもって、野田村仮設住宅訪問活動は終了いたしました。2011 年 8 月から始まり、4 年 7 か月。途中、1 回だけ豪雪のために中止になったことがありましたが、事故もなく毎月 1 回の訪問活動を続ける事が出来ました。皆様のお祈りとご支援、なにより主のお守りがあったからこそと感謝しています。
野田村仮設住宅訪問活動は礼拝をもって始まりました。その終わりも礼拝をもって終わりとしたいと思います。その感謝をささげる礼拝を以下のように行うことになりました。ご都合のつく方はぜひ、ご参加ください。特に野田村訪問に行かれた方、行きそこねてしまったという方、ぜひご参加くださいますようご案内いたします。

野田村仮設住宅訪問活動感謝礼拝（仮）

●日程：2016 年 9 月 9 日（金）（時間未定）
●場所：鮫バプテスト教会　（青森県八戸市鮫町忍町 30）

なお、時間やプログラム、説教者等については現在検討中ですが、昼食をはさんで礼拝と感謝会プログラムを予定しています。また、交通費の補助等もできる限り行いたいと考えています。詳細が決まり次第、皆様の教会にご案内いたしますので、ご参加いただける方は、お早めに災害対策委員会までご一報ください。

追記：野田村仮設住宅訪問活動は終わりましたが、野田村では今も月 1 回のお茶会が続けられているそうです。このように今もこの働きが用いられていることも本当に嬉しく、感謝したいと思います。

●伝える聖書の言葉

北海道バプテスト研修センター運営委員長　田森茂基

昨年度、北海道バプテスト研修センターでは「私の教会ってどんな教会？　～礼拝プログラム考察～」というテーマを掲げた「第６回　信徒セミナー」を開催しました。そのプログラムを通して気付かされたのは、「礼拝には説教が欠かせない…」と理解している方が非常に多いと言う事でした。その事を踏まえて、２０１６年度に開催する「第７回　信徒セミナー」では、礼拝説教に代表される「“みことば”を伝える」という働きについて学ぶ時を過ごしたいと願い、前回好評だった受講者参加型プログラムを中心に、準備を進めています。

「“みことば”を伝える」という働きは、主日礼拝での説教以外にも沢山あります。例えば､「こども礼拝メッセージ」「教会学校の分級」「家庭集会」、或いは日常生活の中で聖書について質問を受けることもあるでしょう。それらは皆「“みことば”を伝える」働きと言えます。信仰へと招かれた私たちには、キリストの証人となって「“みことば”を伝える」働きが託されています。この働きについて、改めて一緒に考えてみませんか？この学びを通して、私たちの信仰生活の中心である「礼拝」が、更に豊かにされる事を期待しています。皆さんの参加をお待ちしています。

「第７回　信徒セミナー」開催要項

●テーマ：「伝える聖書の言葉
～メッセージをどう準備していくか～」
●日時：２０１６年９月１８日（日）19：00～
１９日（月／祝）15：00
●場所：札幌バプテスト教会